

OPAM開館10周年
館内アトリウム 新・常設展示

時の縁にて

passage of time



※展覧イメージ画像
内部が回転し、光や影を生み出す作品です。

日々のなかで
ふと胸に触れる時間がある。

この作品は
その名もなき瞬間を、
空間にひらく試みである。

制作:穴井 佑樹
(メディアアーティスト・大分市出身)

作品メッセージ「この場所に、縁側の時間を」

幼い頃、玖珠の祖父母の家の縁側で眺めていた広い空、季節ごとに移ろう景色、草木のゆらぎ。その風景のなかで、時間が静かに流れ、過去と今とが溶けあい、様々な情景が豊かに湧き上がる感覚がありました。作品を通して、時間や自己との対話に誘う空間を創造したいと考えるようになり、幼い頃の体験が、現在の活動の原動力となっています。

この作品では、大分の自然や記憶を讀えながら、人々の日常にやわらかく溶け込み、ふと足を止め、作品を眺めた時に、それぞれの人生の大切な瞬間が心に蘇り、その情景が鮮やかに浮かび上がることを願い、制作しました。まちに開かれた美術館(OPAM)のアトリウムに、「縁側のような時間」を立ち上げようと試みた作品です。

本作品が、美術館と人々とのあいだに新たな縁を結び、日々の暮らしに寄り添うような存在になれば幸いです。感性豊かな子どもたちに、こころ踊る瞬間が生まれることを願って。

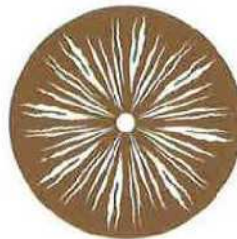
自然の中で紡がれる時間を象徴するエレメントが廻り、光や影が移ろう

※本作品は、大分の豊かな自然を表現するため、日田杉を使用



大地
(わきたつ)

大地の中に連綿と重なる記憶、立ち上る湯気。大地の恵み豊かな大分の熟を表現した光。



水
(ゆらぎ)

波は寄せては返し、同じ形を繰り返さない。そのゆらぎは、過去と今が重なり合う瞬間を映し出す。



木
(めぐる)

根は静かに地中で時を重ね、葉は光を受けて揺れる。目に見えるものと見えないもので紡ぐひとつの循環が、静かに空間に息づく。

アーティスト: 穴井 佑樹 (Yuki Anai)



メディアアーティスト。大分市出身。

慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科修了。

在学中より、チームラボ株式会社にてアート作品制作に従事したのち、独立。

「自然はメディアである」をコンセプトに、光や音の先端技術を用いて、自然の持つ多様な側面やメッセージをメディアアートとして表現する。国際的に名高いメディアアートの祭典「Ars Electronica」(オーストリア)や、「Athens Digital Arts Festival」(ギリシャ)、台湾国立美術館、国際現代芸術祭「中之条ビエンナーレ」等に招聘されるなど、国内外問わず活動を行う。また、先端技術やアート表現を活かし、建築照明や空間設計、大型イルミネーション等の商業分野においても活躍中。

<http://yukianai.art/>

OPAM 大分県立美術館
Oita Prefectural Art Museum

〈住所〉 〒870-0036 大分市寿町2番1号
〈電話〉 097-533-1500
〈メール〉 info@opam.jp

〈開館時間〉 10:00-19:00 ※金曜日・土曜日は 20:00 まで(入場は閉館の30分前まで)
〈休館日〉 なし(館内点検等による臨時休館を除く)
〈駐車場〉 屋外駐車場(143台)利用時間 24 時間
地下駐車場(107台)利用時間 8:00~23:00 ※利用時間外出入庫不可
利用料金 最初の30分以内 無料 / 30分を超え1時間以内200円
1時間を超え30分ごと100円 ※ただし23:00 ~ 8:00は900円を上限とする
〈アクセス〉 JR 大分駅府内中央口(北口)から徒歩15分 大分ICから車で10分



大分県立美術館
公式HP